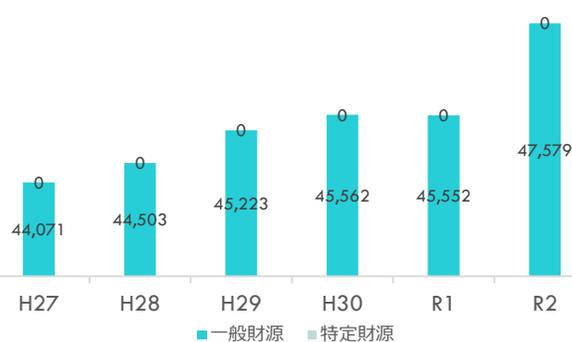
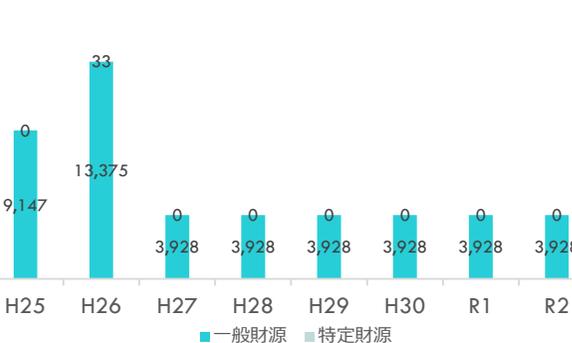


病院（備前・日生・吉永）、さつき苑

経常的経費の財源(万円)



臨時的経費の財源(万円)



普通建設事業費の財源(万円)

なし

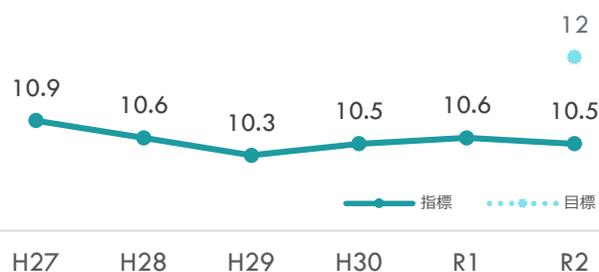


現状と課題

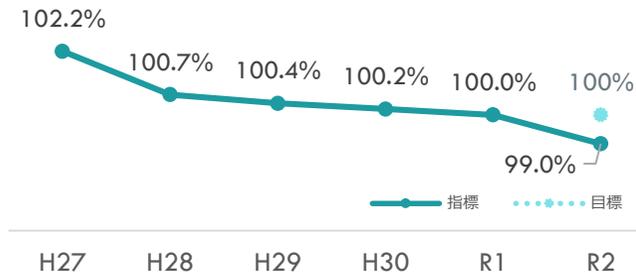
全国的に、医師や看護師などの医療従事者の慢性的な不足や医療ニーズの多様化により、医療を取り巻く環境は著しく変化しており、ソフト面での充実が急務となっています。特に、救急搬送状況を見ると東備消防組合管内（備前市と和気町）の医療機関への搬送は約53%にとどまっていることから、民間医療機関も含めた地域の医療機関相互の連携強化が重要課題となっています。また、安心して子育てができるよう産婦人科、小児科の充実が望まれています。老人保健施設ほかでは、病院との連携を図りながら、在宅復帰支援、在宅介護・医療の充実が課題となっています。平成27年度より地方公営企業法の全部適用に移行したことで経営基盤の強化を図っており、今後も市立3病院の連携や機能分担を含め、より効率的な経営のあり方を検討し、持続可能で質の高い医療体制への転換が求められています。

成果指標

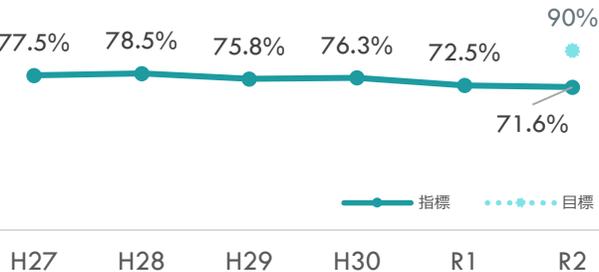
100床あたりの医師数（人）



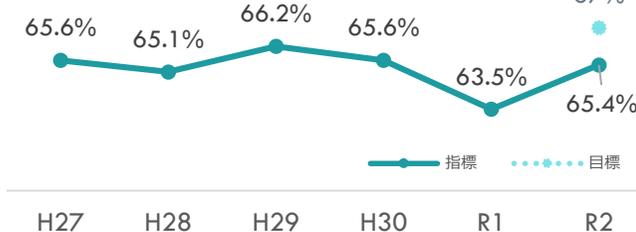
経常収支比率（%）



病床利用率（一般病床のみ）（%）



東備消防組合管内医療機関受入件数のうち、市立3病院の受入割合（%）



指標の説明・・・

経営の中心となる医師確保の観点から100床あたりの医師数を指標としています。経営の健全性、効率性を示す経常収支比率、病床利用率を指標としています。医療機能の面から東備消防組合管内における救急搬送患者の市立3病院の受入割合を指標としています。

課題に対する主な取組

課題	課題に対する主な取組	概要	臨経区分	予算執行(万円)	特定財源(万円)	アウトプット(どのくらいの事業や取組を行ったか)	アウトカム(どれだけの成果が得られたか)
救急搬送受入	医師配置	3病院当直医の専門の診療科を周知する	—			当直業務 365日	救急搬入件数 763件
在宅復帰・在宅療養支援推進	さつき苑における施設類型	施設類型を在宅強化型へ移行する	企業会計	老健施設事業費用 4億3,111万円		加算型から在宅強化型へ移行	老健施設運営収益対前年比率 102.9%
在宅介護・医療の充実	訪問看護	訪問看護を実施する	企業会計	訪問看護ステーション事業費用 3,690万円		訪問看護の実施 243日	訪問看護ステーション利用者数 3,480件
経営基盤の強化	経常収支比率	経営の健全、効率を図る				経常費用 49億2,195万円	経常収益 48億7,370万円
持続可能で質の高い医療提供	感染症対策	新型コロナウイルス感染症対策を実施する	企業会計	コロナ対策補助金 1億6,812万円		発熱患者等の外来診療・検査体制を確保	発熱外来件数 526件 コロナ検査件数 1,492件

施策の評価

一次評価者	役職	吉永病院事務長	令和2年度の経営状況は、病院事業全体で赤字となりました。原因は、従来から減少傾向にあった患者数が、新型コロナウイルス感染症が拡大する中で大きく落ち込んだためです。3病院の合計で、病床利用率（一般病棟のみ）が前年比1.2%減、1日平均外来患者数が前年比11.1%減となっており、感染症の収束までは同様の状況が続く可能性があります。従来から進めている他病院や診療所、高齢者施設等との連携を引き続き推進していくとともに、安心して来院していただくため、今後は感染症への対策を更に充実させていく必要があります。また、さつき苑に於いても、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、入所制限等の措置を行ったため、入所者数が前年比3%減となっており、病院と同様、感染症対策を更に充実させていく必要があります。
	氏名	藤澤昌紀	
二次評価者	役職	病院総括事務長	令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、経営面において大きな影響があり、いまだに、新型コロナウイルス感染症の収束が見込めない状況であります。そうした状況下ではありますが、更に感染症対策の充実を図り、通常の診療や救急医療等を継続していく、また、新型コロナウイルス感染症の対応については、発熱患者外来やワクチン接種など市立病院が担う役割を果たし、地域を支える医療機関として、安全で安心な医療を提供してまいります。
	氏名	濱山一泰	